

ガイコツとのあくしゅ

京都府 国立京都教育大学附属京都小中学校初等部三年

植松 岳

ひゃあ！

つめたい手

ひゃあ！

何どもあくしゅがしたくなる手

理科室のそうじが楽しくなった

早く八週間たたないかな

れいぼうをつけていないのになぜつめたい？

と聞くと

「てつでできているからちやう？」

と言う

ぼくは本当かなと思った

時によつてつめたさがちがう

サッカーをやった後でも

本をよんだ後でも

友だちとしゃべった後でも

でも

いつでもぜったいつめたい手

おもしろい手

早くそうじ当番やってこい

早くあくしゅがしたい

大好きなあの手と

早く

いっぱい

あくしゅがしたい

ひょう本のガイコツとのあくしゅ

一しゅんのプラネタリウム

京都府 国立京都教育大学附属京都小中学校初等部三年

大柿 優

雨の朝

改札口を出て電車にそっと乗りこんだ

せきにすわり

まどの方を見た

すると雨がふっていたからか

水てきがついていた

やがて電車が発車すると

まどの向こうに

光が走った

もう一ど

まどを見ると

水てきに光が走り

一しゅんで

とても小さな

プラネタリウムみたいにな

なっていた!

そこには

たくさんの乗きやく

ポスター

あみだな

エアコン

回るかん気せん

緑色のざせき

あん内の

パネルが回転して映っている

そして

車内アナウンスが

ひびきわたる様に

聞こえる

水てきの

一つ一つに

それらがうつる

はっと気づくと

そのプラネタリウムの向こうから

友だちの目がのぞきこんでいた

天と地をつなぐすべり台

京都府 国立京都教育大学附属京都小中学校初等部三年

山田 心温

今日は 雨
でもやつとあがった
私は家から外に出て
空を見上げた
そこには
にじがかかっていた
それは天と地をつないでいる
すべり台みたいだった
私は
にじがかかった日
いつも
いなくなってしまうた
ひいおばあちゃんの
ことを考える
ひいおばあちゃんは
日だまりのような人だった
いっしょに
あそんでいると心が温かくなった
ひいおばあちゃんのへやに入ると
ひいおばあちゃんの
やさしいかおりがしていた
いっしょに
ごはんをたべたりした
いろんな思いでが
よみがえってくる
にじのすべり台を
さか上りしていったら
ひいおばあちゃんに
会えるかな

(和歌山県知事賞)

そうじぎ

京都府 国立京都教育大附属京都小中学校初等部三年

西浦

絢音

そうじがはじまった。

ゆか、つくえの下

いろいろな所でそうじぎが

ゴミを食べている。

「ウーン。」

「ウーン。」

「あ!!。」

わたしの人形、弟のおもちや
いろいろおちている。

「ウイー。」

「ウイー。」

ママにつかまっている人形が、
なきそうな目になっている。

「たいへんだ。」

「ヴィー!!。」

「ヴィー!!。」

そうじぎが、

うなりおこっている。

「たすけに行かなくちや。」

書道

和歌山県 和歌山市立西脇小学校六年

三尾 美月

書道とは自分の鏡だ
イライラしている時、
おこっている時、
すみがにじんんだり、
失敗する

気持ちが高ぶっている時
字がさだまらない
気持ちが悪くなる時
一番自分らしい字が書ける
生き生きした字
伸び伸びした字
元気のある字
いきおいのある字
私の字、もう一つの私

いつかだれかに
私の書道
伝えたい

(日本現代詩人会会長賞)

弟が見た冬のゆめ

京都府 国立京都教育大附属京都小中学校初等部三年

三浦 蒼矢

弟はすごいゆめを見たらしい
弟が話してくれた

大雪がふっていて、そしてじいーと
見ていたら、かっぺにつもった雪が
雪だるまになったんだ。

すべて雪がなくなっても
ずうーつとずうーつとふって。
ついには家の外も家の中も

雪だるまだらけになっちゃった。
でも家の中は温かいから、どんどん
とけちゃって、ついには水だらけになった。
だから、とても時間をかけて

すべての水をぞうきんでふきとった
でももう一つ問題が、それは
家の外の何百こいや何千この雪だるま
しかし、それは外が温かくならないと
雪も雪だるまも一生とけない
だけどそれにもかかわらず
ずうーつとずうーつと

雪がふっていた
という所で弟はゆめからめざめたらしい

次の日もゆめを見た弟
またまた話してくれたよ
今回も冬のゆめだよ
朝おきて下にいったら

冬だけどめずらしく雪がふっていなかった。
次の日、ちよつとねぼうをしてしまった。
まどを開けると、大雪がふっている。
だけど下におりと雪はやんだ。

ふしぎだなと思った弟。
また上にあがったら
またまた大雪がふった。
ずっと考えていたら
時間がきてしまい朝ごはんを
食わずにようち園に行った弟だった。
そのまた次の日もゆめを見た弟

今回も三日れんぞく冬のゆめ
弟がかつてにしゃべりだした
今回はね、気温のゆめ
夜ねる時冬だとはかんじられないほど
あつくてあつくて
服をぬごうと思ったけど
朝さむかっいたらいやだと思ったから
服をぬがずにねたんた
そしたら朝もあつくて
かぜをひいてしまったという
ゆめを見たらしいよ